

丸太、製品とも需給緩和続く

国産材商況

国産材は、6月の梅雨入りで丸太の供給が減少し、製品は需要の上向きが期待されたが、結果的に丸太の出材は落ち込み、製品の引き合いは期待ほどは盛り上がりなかった。そのため丸太、製品とも全国的に需給の緩い状態が3カ月ほど続き、相場も軟調に推移している。6月下旬から雨天の日が増えてきたこともあり、7月は出材の減少が見込まれている。製品は特に中間流通でまだ一服感が色濃いが、ここ数年7月は需要の小山が出ているため、今年も荷動きがまとまってくるのが期待されている。

相場軟調、地合い固まらず

6月前半はプレカックト向けを中心に好調な出足が見られたが、まとまった荷動きにはつながらず、製品の売りにくさが目立つ。木造の住宅着工数は比較的堅調で、非住宅物件の木造化も確実に国産材製品の需要を積み増している。ただ、製品の供給が順調なため需給が締まらない。競争する米材等の外

材製品の高騰や供給不安が落ち着いてきたことも、国産材製品の頭を抑える形となっている。また、ここ2年で供給能力が拡大した杉集成管柱が、杉ムクK D柱の停滞感に影響しているとの声もある。熊本地震の復興需要や西日本豪雨による供給減少など、災害を背景とした需給の特別な動きが落ち着いたこと

も、需要の閉そく感につながっていること見られる。競争の激しい関東市場では、特に6月後半から一段と相場が緩みやすくなり、杉柱3桁KD特等105 μ 角が5万 \sim 5万2000円(立方桁)を中心に、1車単位などの大口取引では5万円(同)を割り込む価格も散発してきた。さらに相場の

下げ込みが目立つのが同120 μ 角で4万3000 \sim 50000円(同)を中心に、さらに下値が広がっている。120 μ 角は、杉・桧、3、4桁のすべてで90、105 μ 角に比べ在庫の滞留が目立ち、量が動くタイミングで安値が出やすくなっている。グリーン材の需要も、構造材、羽柄材、土木用を含め全般に一服している。品不足から一時3万5000 \sim 80

00円(同)まで値上がった杉4桁 \times 90 μ 角特等も、3万3000円前後(同)へ落ちてきた。丸太相場の弱含みは、一部地域・品目を除き5カ月ほど続いているため、民有林での出材意欲の減退が懸念され始めた。特にここ3カ月は桧の値下がり

が目立ち、主要産地でおよそ3年ぶりに1万5000円台(同)の相場が立ってきた。杉3桁柱取りは、出材分は手当てされるため荷余り感は薄い。相場はシリ安基調が続き、主要産地の相場が1万1500 \sim 2500円(同)と前月比500円安となっている。杉中目は杉柱より引き合いが弱く、相場の下値が1万円(同)まで広がってきた。杉大径材は売れ残る量が増えて

いる。